

一 次の1、2、3の問いに答えなさい。

1 次の――のひらがなを漢字に直しなさい。送りがなが必要なものはそれも書きなさい。

- ① 父はテレビ番組をせいさくする仕事をしている。
- ② サッカーのしんぜん試合に出場する。
- ③ 決勝戦に向けてひさくを練る。
- ④ 今日は体力をおんぞんして、明日に備える。
- ⑤ 紅茶に入れるさどうを購入する。
- ⑥ 山頂で初日の出をおがむ。
- ⑦ 一流の作品を見て目をこやす。
- ⑧ 議長が対立意見をしりぞける。
- ⑨ 休み時間に背をそらして伸びをする。
- ⑩ 新聞記者が政治家に次々と質問をあびせる。

2 次の――に入る表現を、後のア、イ、ウの中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。同じ記号は二度使いません。

- ① 生まれたばかりのライオンの赤ちゃんを見ようと、檻の前は――山の人だかりだ。
- ② 向こうから兄がやってきたのかと思ったが、よく見ると――の他人だった。
- ③ 朝、部屋の窓を開けると、外は雪に覆われて一面の――世界だった。
- ④ 多くの先輩がいる中、野球部のキャプテンとして二年生のA君に――羽の矢が立った。
- ⑤ 彼はまだ――二才のくせに、口だけは一人前のことを言う。
- ⑥ ここにいる若手の研究者たちは、日本の科学技術の将来をになう――の卵だ。

ア Ⅱ 白 イ Ⅱ 黒 ウ Ⅱ 赤
エ Ⅱ 青 オ Ⅱ 金 カ Ⅱ 銀

3 次の――の意味や使い方が同じものを、それぞれのア、イ、ウの中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- ① 彼はもう悪い友達とは手を切った。
- ア あやまってナイフで指を切った。
- イ 長くなりそうなので、いったん話を切った。
- ウ 彼は息子と親子の縁を切った。
- エ 今日、新学期のスタートを切った。
- オ 彼女は百メートル走で十秒を切った。
- ④ 新しい店が近くに出来たので、客の足が遠のく。
- ア 彼女がおそらくクラスで一番足が速いだろう。
- イ 遠足で長い距離を歩いたため、足が棒になった。
- ウ たくさん商品を買すぎて、足が出てしまった。
- エ 台風のため電車が動かず、通勤の足を奪われた。
- オ 出かけたその足で、銀行に立ち寄った。

② 今後の経済の見通しは明るい。

- ア 彼女は明るい色の洋服を買った。
- イ 窓から朝日がさして、部屋の中が明るい。
- ウ 希望に満ちた明るい未来を思い描く。
- エ 以前住んでいたで、この辺りの地理に明るい。
- オ 不正のない明るい選挙を行いたい。

③ 頭が古い父は、母が働きに出ることに反対だった。

- ア 部下に失礼な言い方をされて頭にきた。
- イ 今日の仕事で疲れて、頭が働かない。
- ウ 試合に出場するために、選手の頭数をそろえる。
- エ 試験に備えて、教科書を頭から見直す。
- オ 運動会では、頭に全員ハチマキをする。

⑤ 夏休みは家で海外旅行に出かけた。

- ア 秋になって、あたり一面にコスモスが咲いている。
- イ 彼は幼い頃から一流の料理人になることを夢見ていた。
- ウ 先生は一例をあげて、わかりやすく説明した。
- エ 熱があるのなら、一刻も早く病院に行った方がよい。
- オ 彼と私は同じ名前なので、同一人物に間違えられる。

⑥ 彼女はこの町の観光大使に任命された。

- ア 生まれてきた子供に、花子と命名した。
- イ 戦争によって、多くの生命が奪われた。
- ウ 放った四本の矢のうち、二本が的に命中した。
- エ 社長の命令で、急に海外に出張する。
- オ 彼女との出会いは、運命的だった。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そのころ私は、自宅の机の上に大きな水槽を置き、底に土や枯葉を入れ、山で捕まえたアカネズミを一匹飼っていた。餌は、①、トウモロコシやムギなどの雑穀を混ぜた「鳩の餌」として売られていたものを与えていたのであるが、②、ヒマワリの種子や、山で拾ってきたクヌギのドングリを与えていた。

③、水槽を見ていると、アカネズミが巣箱から出てきてさかんに活動しはじめた（水槽の中は、ガラス面で外部の空気の動きやニオイがさえぎられ、中のアカネズミは私の存在を気にせず自由にふるまうのである）。

しばらくすると、ヒマワリの種子を、④、その殻を剥いて中身を取り出して食べた。それから、近くにあったクヌギのドングリを手を持ち、すこし齧った後、ドングリの尻のほうをくわえて走り出したのである。アカネズミは水槽の隅までドングリを運び、地面に置き、⑤、なんと穴を掘りはじめた（私は次に何をするのだろうかと思いを殺してガラス越しにすぐ近くで見ていた）。アカネズミはそれから、ドングリを穴に入れ、周囲の土で穴を埋め、さらに近くの枯葉を前肢でかき集め、⑥「一仕事終わった」という様子でその場を立ち去ったのである。

私は、種子の貯蔵行動自体は、シベリアシマリスで何度も何度も見ていたのであるが、アカネズミの貯蔵行動は、シマリスの行動とはまた違って独特の味わいがあった。シマリスの貯蔵行動が電気仕掛けの動くオモチャだとすると、アカネズミの⑦それは、ゼンマイ仕掛けのオモチャ

やみたいな……。

とにかく私は、アカネズミの③そんな行動に大変感銘を受けた。そして同時に、いくつかの疑問もわいてきた。疑問の一つは、「ヒマワリの種子は、殻を剥いてその場で食べてしまうのに、クヌギの種子はなぜ貯蔵するのだろうか」ということだった(その現象は、その後の観察でも何度確認された。クヌギを、その場で殻を剥いて食べることもあったがその回数はずっと少なかった)。

ヒマワリだって貯蔵しておけば間違いなく冬の餌になりうるのに。そして、実際、シマリスは、秋には、ヒマワリの種子を巣穴や土中に貯蔵するの……。

そのときの私の頭には次のような仮説があった。「アカネズミ①がクヌギは貯蔵する⑥がヒマワリは貯蔵しないのは、クヌギは中身⑦が多く、⑧運んで貯蔵するために使われるエネルギー④を上回る栄養⑤がある⑥が、ヒマワリには、⑨そのエネルギーを上回る栄養がないからではないか。これは公共事業などでよく問題にされる、⑩費用⑪対⑫効果⑬の概念と同じことだ。動物行動学が明らかにした行動の原理の中に、次のようなものがある。⑭その行動を遂行する際に使われるエネルギー⑮に比べ、⑯その行動によって得られるエネルギー⑰が大きい場合ほど、その行動は行われやすい。だとしたら、クヌギのドングリ(約4グラム)、コナラのドングリ(約2グラム)、スダジイのドングリ(約1グラム)を一⑱緒にアカネズミに与えてみたら、アカネズミはクヌギのドングリを一番よく貯蔵し、スダジイのドングリはあまり貯蔵せず、場合によってはヒマワリの種子のように食べてしまうかもしれない」

ところで、この仮説は、「なぜ、アカネズミはヒマワリの種子をその場で食べてしまうのに、シマリスではヒマワリの種子を巣穴やその周辺に運んで貯蔵するのか」という疑問にも答えることができた。

というのは、シマリスは、アカネズミにはない頬袋①という秘密兵器を持っており、頬袋にヒマワリの種子をたくさん詰めて運ぶことができるからである。つまり、たとえ1個の栄養は少なくてもそれを一度にたくさん運べるので、それらの②種子のエネルギー③を合計すれば、④運搬・貯蔵に費やすエネルギー⑤を上回るではないか、というわけである。

そんな仮説を検証すべく、私は、2匹のアカネズミに、(2日おきに主食としてヒマワリの種子を与え)5日おきくらいに3種類のドングリを与えて、深まり行く秋の夜長、彼らの行動を観察したのである。そして結果は……。私の仮説はほぼ、予想通りになった。つまり、2匹ともスダジイのほうは、その場で食べることが多かったが、クヌギとコナラは、くわえて運ぶことが多かった。

クヌギとコナラのどちらが運ばれやすいかについては、観察した限りではなんともいえなかった。しかし、朝、ドングリを与えた場所にそれぞれのドングリが何個残っているかを調べると、クヌギのほうが多く運ばれたことが推察された。⑥私が大変喜んだのは言うまでもない。

その間、いろいろな学術的な情報にも接し、私の頭の中のテーマに、新しい「視点⑦」が入りこんできた。それは私が自力で考え出したものであるが、⑧「ドングリを生産するそれぞれの植物の側の事情・戦略」ということである。

大雑把に表現すると、動物行動学は、「地球上の生物はすべて、自分の子どもや孫(正確に言えば、自分の遺伝子)がより多く残せるように、その形態や行動が決められている」ことを明らかにしてきた。それはもちろん、動物でも植物でも同じである。

つまり、アカネズミの側から言うと、クヌギやコナラのドングリを巣穴や縄張りの中に貯蔵することは、冬を越すために利益になることであるが、それは、クヌギやコナラのドングリにとっても利益になっていると考えるのが妥当である。

クヌギやコナラなどの落葉樹は、子どもが成長するためには比較①たくさんさんの光が必要であり、母樹の下に落ちたままだと母樹が②陰になり、ある程度は成長しても、やがては枯れてしまうことがわかっていて、だから、アカネズミたちによって母樹の下から遠くへ運ばれることは子どもが生き残る上で有利なことだ、というわけである。だから、クヌギやコナラは、ドングリの大きさや中身の成分を、アカネズミが運搬・貯蔵したくなるような状態にしているのだろう、というわけである。

私が、アカネズミとドングリの研究を続けているのは、もちろん、アカネズミやドングリがそれだけ魅力的な存在であったからだが、それだけではない。その研究の中に、動物と植物を巻き込んだ自然の物語を感じるからである。③「動物の息づかい」④「植物の息づかい」⑤「それらが作り出す自然全体の息づかい」と言ったらいいのだろうか。

大学の裏山の1本のコナラの樹から落ちたドングリに、できるだけ取りこぼしがないように、マジックで番号を書いていく。するとアカネズミが運んで土に埋める。すると、冬の間にアカネズミに食べられなかったドングリが芽を出して伸びていく。そんな幼木を探して根元を調べていくと、マジックの番号が書かれたドングリの殻をつけた幼木が見つかる。アカネズミがここまで運んで土に埋めたことがわかる。

アカネズミに子どもをそこまで運ばせて出芽させるというコナラの戦略である。もちろん、かなりの数のコナラのドングリは、秋や冬、アカネズミによって食べられたに違いない。それを栄養にしてアカネズミは秋と春に子どもを産む。コナラの子どもは、母の下の日陰から脱出して、光が降り注ぐ場所まで成長できる。そのようにして、アカネズミも、コナラも裏山の森で生き抜いているのである。

⑧でも、そこで起こっている出来事のほとんどを我々はまだ知らない、ということなのである。

(小林朋道『ヒト、動物に会う』※本文を改めた部分があります。)

問一 ① ⑤ に入る言葉を、次の中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。同じ記号は二度使いません。

ア それから イ ときどき ウ それで エ ある夜 オ いつもは カ ところで キ まず

問二 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮

問三 ①『「仕事終わった」という様子』とはどんな様子ですか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 何とか終わりはしたが、まだ完全ではないという思いが心に残っている様子。
 イ かなり手間のかかる仕事をなんとかやり終えたと思つてほつとしてゐる様子。
 ウ けっこう手間取ったわりには結果はさほどではないとがっかりしている様子。
 エ 仕事を全て自分の力で仕上げたという喜びが体全体からあふれ出ている様子。
 オ 一つの仕事は終わつても、次がまだ控えているので気を引きしめている様子。

問四 ②「それ」・③「そんな行動」の説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ②は「何度も見ていた」「行動」を指すが、③は同じ行動でも「貯蔵行動」だけを特に限定して指している。
 イ ②は「何度も見ていた」「行動」を指すが、③は「電気仕掛けの動くオモチャ」みたいな「貯蔵行動」を指している。
 ウ ②は「何度も見ていた」「行動」を指すが、③は「ゼンマイ仕掛けのオモチャみたいな」「貯蔵行動」を指している。
 エ ②は「貯蔵行動」を指しているが、③はアカネズミらしい「独特の味わい」のある「貯蔵行動」を指している。
 オ ②は「貯蔵行動」を指しているが、③は「電気仕掛けの動くオモチャ」みたいな「貯蔵行動」を指している。

問五 ④「『費用』対『効果』の概念」とありますが、ア・エのは、「費用」・「効果」の場合には「ア」、「効果」の場合は「イ」と答えなさい。

問六 ⑤「私が大変喜んだのは言うまでもない」について、筆者は自分の「仮説」が証明されたから「大変喜ん」でいるのですが、証明されたのはどういうことですか。「クヌギ」と「コナラ」の例をあげて説明しなさい。

問七 ⑥「ドングリを生産するそれぞれの植物の側の事情・戦略」とありますが、特に「戦略」について詳しく説明している一文を本文から探し、その最初の七文字を書き抜きなさい。(句読点は一字と数えます。)

問八 ⑦『動物の息づかい』、『植物の息づかい』、『それらが作り出す自然全体の息づかい』と言つたらいいのだろうか」とありますが、筆者はここでのようなことを考えているのですか。よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 動物でも植物でも、自然の中を生き抜くために利用したり利用させたりといった持ちつ持たれつの関係を作っているということ。
 イ 動物と植物は、自然の中を生き抜くためには互いに対決の姿勢をはつきり打ち出すことで、勝ち残るしか方法はないということ。
 ウ 動物と植物は、それぞれが自分の利益ばかり考えているように見えても、見えないところでは助け合つて生きていくということ。
 エ 動物でも植物でも、自然の中で生き抜くためには相手を利用しなければならず、利用された方は生き残れないということ。
 オ 動物、植物に限らず、自然界のすべての生物は、結局は自然の力に対して服従しなければ生き抜くことはできないということ。

問九 ⑧「でも、そこで起こっている出来事のひとつを我々はまだ知らない、ということなのである」には、筆者のどのような思いが込められていますか。よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア これまでアカネズミとコナラの間で起こっていることを知らなかったように、動物、植物のことなど、研究していないことがらが多すぎてとほうにくれているということ。
 イ 今回、アカネズミとコナラの間で起こっていることを運良く知ることができたように、今後、知らないことがらが解明できるかどうかはめぐり合わせであるということ。
 ウ 今回、アカネズミとコナラの間で起こっていることを知ることができたように、これから仮説を立てて実験していけば、自然のなぞは必ず解明できるということ。
 エ 今回、アカネズミとコナラの間で起こっていることを初めて知ることができたが、この経験を生かしてゆけば、自然はまだ多くのことを教えてくれるのではないかということ。
 オ これまでアカネズミとコナラの間で起こっていることを知らないままだったが、こんな身近なこともわかっていなかったのかと思ひ、今後の研究の参考にしたいということ。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あの時、俺達は……、つまり俺と川合将太とヨッシーこと吉田健は、小学校の家庭を犬つころみたいに走り回っていた。サッカーのまね事をしていううちに、ヨッシーのボールは俺達を見捨てたみたいに跳ね上がるとよその家のへちま棚をかすめて縁台の下に転がり込んだ。垣根の下から潜り込むとタゲのだし汁の匂いがぷんつと漂つてきて、すっかり腹ぺこだったことに気がついた俺達は、腹ぺこの歌を歌いながら陽平の周りをぐるぐる回った。

おなががすいた、おなががすいたぞ、グー、グー！

陽平はジャングルジムが一番てっぺんから、さらにその上の上のほうの空をずっと見ていた。はけで描いたような雲が陽平の影の向こうに広がっていた。皆でジャングルジムに登つて陽平の真似をした。風が心地よかった。空が急に近くなった。陽はもうすでに落ちつつあり、あ

たり一面が残照で黄金色に輝いていた。ほてったような薔薇色の雲が、ぐんぐんと頭の上を過ぎて行く。あんまり熱心に陽平が空を見ているから、俺は言ったんだよ。なにが見えるんだ、って。陽平はすぐに返事をしなかった。ちえっ無視かよと、^㉑ぶてくされた俺に、^㉒申し訳のようにぼつりと言った。

「音楽を、聴いてるんだ」

音楽ってなんだろう。そんなものがどこから聞こえるのか。たぶん、陽平の頭の中で鳴っているんだろうけれど、それがどんな曲なのか想像もできないし、あまり興味もなかったので黙っていた。

「直樹には、聞こえないのかなあ」

^①陽平は変な奴だった。頭はいいし足も速い。クラス対抗リレーじゃいつもアンカーだったし、水泳大会だって五十メートルを二番で泳ぎ切った。その気になれば番だって張れるのに、そういうのには、つまり自分を従えて群れるみたいなことにはまるで興味ないみたいだった。俺達は同じ子ども会で家が近かったからよく一緒に遊んだけど、陽平は、こんなふうに一人で高いところに登ってぼんやりしていることが多かった。俺達はまだ子どもだったから、陽平がなにを考えてるんだろう、なんてことは発想になかった。こいつはこういう奴なんだ、それでおしまい。

子どもってのはとても便利なんだ。なんだってありのままに受け入れてしまうから。将太が突然「マンモスだー」と騒ぎ出した。なんてことはない、どこかい夏の入道雲の塊がのっしのっしと空をよぎっていた。だけど、その時の陽平の様子だったらなかった。急にジャングルジムの鉄棒から落っこちかけて、どうにか猿みたいに逆さになって、そして言った。

「見えるのか？」

^②俺達はあつげにとられたさ。だって将太は空に浮かんだでつかい雲を指さして、それがマンモスの形をしていると言ったんだ。すぐわかった。だから陽平の「見えるのか？」っていう質問はなんだか変だった。将太も陽平の勢いにちよっとひるんで言った。

「見えるよ」

鼻の穴をふくらませて、将太は「あたりまえだろう」という顔をした。それで俺達もいっしょになって「マンモスだ、マンモスだー」と空を指さしておびえた原始人の真似をした。

「うっほ、うっほ、逃げる、逃げる、踏みつぶされる」

「凶暴なマンモスだ。怒ってる、怒ってる」

そう言っ、ジャングルジムの迷路をぐるぐると逃げ回って見せた。

「そうだよ、マンモスは怒ってるんだ」

陽平は頷いた。

「オマエら、ほんとうに、アレが見えるのか？」

どうしてだろうか、その時の俺にはなにかとても意地悪な気持ちがあったと思う。陽平をへこましてやりたいような、からかってやりたいような、そんな気持ちになった。

^③見えるよ。なんだ陽平には見えないのか？」

陽平はうれしそうに言った。

「僕にも見えるよ」

「ほんとうか、どこに見える？」

「あそこにいる」

俺達は顔を見合わせた。陽平が指したのは、すでに黒々とシルエットになった校舎のほうだった。もちろんマンモスなんていない。空を指さしていた将太は黙った。将太のマンモスはもうすでに形が壊れて散り散りになっていったからだ。

「あいつは夜になると山の方から降りて来るんだ。最初はなんだかわからなかったけれど、この間、図鑑を見ていたらひらめいたんだ、そうかあいつはマンモスだったんだ、って」

恐る恐る、校舎の間に目をこらしたけれど、何も見えなかった。校庭にぱっと明かりがともったのはその時だ。夜になったのだ。白っぽく照らされた校庭にももちろんなにもなかった。^④だけど、俺達はなんだかぞっとした。その場所だけ空気が濃いような気がしたからだ。恐る恐るヨッシーが言った。

「マンモスは、どんな形をしてるんだ？」

陽平は遠くを見る目をした。

「あいつはひどく醜いよ。ぶよぶよの、巨大なマシユマロの塊みたいなんだ。灰色っぽく濁っていて、それに毛がはえている。とっても長い毛だ」

ぶよぶよのマシユマロに毛が生えた生き物？ そんなものが夜になると学校の校庭にやって来るなんて、そんなことあるわけない。だけど、陽平があまりに^㉓淡々と話すものだから、それが嘘だという気持ちにはなれなかった。

「じゃあ、それはマンモスの霊なのか？」俺が言うと、陽平は笑った。いかにも寺の息子が言いそうなことだと思ったのかもしれない。言っから俺はなんだか顔が赤くなった。

「かもしれない、あいつはきっと昔に絶滅したマンモスの亡霊なんだ」

絶滅したマンモスの亡霊。その言葉は一瞬で俺達を魅了してしまった。^⑤せつめつしたマンモスのぼうれい。少年雑誌のイラストグラフィアで見た巨大な牙をもつマンモス、それが悲壮な叫びをあげながら怒り狂い、鼻を振り上げ鳴きわめき、累々と倒れていく様子が浮かんだ。

「あいつはもう、自分が誰だったかも忘れてしまっているんだ。自分の形すら忘れてしまって、あんな醜い姿になって、さまよっているんだ。かわいそうな奴なんだよ」

そう言われると、なんだか校舎の陰にマシユマロに毛が生えたような巨大なマンモスの亡霊がいてもおかしくないように思え、^⑥俺達は妙にしんみりしてしまった。そういえば、近ごろは隣の福井県で続々と恐竜の化石が出土している。地元のニュースでさかんに取り上げられ

ていた。だったら、ここにマンモスがいてもおかしくはないだろう。

「恐竜の亡霊はいないの？」とヨッシーが聞いた。

「恐竜は、見たことがない」

「なんでマンモスの亡霊がいて、恐竜はいないんだよう」ヨッシーの質問に、⁷陽平はふふんと笑った。そして妙なことを言った。

「恐竜はまだ滅びていないからだよ」

「嘘だ、恐竜はとつくの昔に絶滅したんだぞー」俺達はみんなヨッシーの意見に賛成だった。だけど、陽平は平然としてた。まるで、自分だけが秘密を知っているみたい、そんな自信に満ちた顔だった。

「恐竜は人間のなかに生き残っている。だから、まだ絶滅していないんだ」

俺達は黙った。どう言ったらいいのかな。つまり、⁸俺達はその日、陽平を発見した。谷崎陽平という少年。彼が考えていたこと、見ていたことの断片に初めて触れた気がした。

(田口ランディ『マジナル』)

問一 ④「ふてくされた」・⑥「申し訳のように」・⑩「淡々と」の意味として、よいと思われるものを次の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|--|--|
| ④
ア 不愉快 <small>ふげく</small> そうな様子を見せた
イ 興味がなさそうな様子を見せた
ウ 落ちこんだ様子を見せた
エ 腹立たしそうな態度をとった
オ 反抗的な態度をとった | ⑥
ア 不服そうに
イ 気の毒そうに
ウ 弁解するよう
エ 後悔 <small>くわい</small> したように
オ 残念そうに | ⑩
ア しつこく
イ 冷たく
ウ 堂々と
エ ぶっきらぼうに
オ あっさり |
|---|--|--|

問二 ①「陽平は変な奴だった」とありますが、直樹は陽平のどのような点を「変」だと思っているのですか。説明しなさい。

問三 ②「俺達はあつけにとられたさ」とありますが、なぜ直樹たちは「あつけにとられた」のですか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 「マンモスだ！」と雲を指して言った将太に、陽平が反応したので、今までジャングルジムで音楽を聴いていると言っていたのが嘘だとわかったから。

イ 静かに空を見ていた陽平が、将太の「マンモスだ！」という発言に異常に反応し、ジャングルジムから落ちそうになるほど落ち着きをなくしたから。

ウ 今まで何を考えているのかわからなかった陽平と自分たちに、雲がマンモスに見えるという意外な共通点を見つけることができたから。

エ 当然見えるはずの雲を「見えるのか？」と確認したこと、陽平には将太が見ているマンモスの他にほかに見えているものがあるのだとわかったから。

オ 目の前の雲がマンモスにたとえられたことはだれでもわかるはずなのに、陽平だけが直樹たちと同じような見方をしていなかったから。

問四 ③「見えるよ。なんだ陽平には見えないのか？」とありますが、なぜ直樹はこのようなことを言ったのですか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 直樹は陽平と同じマンモスが見えてはいないが、マンモスが見えないと正直に言うと言平に見下されそうだったので、見えるという嘘をつき、自分もリーダーになる資格がある人物だと思われようと思ったから。

イ 直樹たちにも将太のマンモスが見えているのに、陽平が疑ってかかるような発言をするので、陽平を刺激するような態度をとり、マンモスが陽平だけに見えるというわけではないことを示したかったから。

ウ マンモスが見えるかどうかという話題になってから急に冷静さを失った陽平を見ると、いつも落ち着いて自分の世界にひたっている陽平の弱みを見つけたような気がして、そこにつけこむことができると思ったから。

エ 直樹が見ている将太のマンモスについてみんなと一緒に騒ぐことで、今までにいろいろな面で勝つことができなかった陽平に対し、自分たちだけにマンモスが見えているという点で優位に立てると思ったから。

オ ヨッシーや将太と一緒に、直樹たちが見えているマンモスは怒っているのだということまで示したのに、マンモスが見えるのかと何度も何度も陽平がしつこく確認してくるので、うっとうしくなったから。

問五 ④「だけど、俺達はなんだかぞっとした」とありますが、その理由として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 今まで自分達が見ていたマンモスと陽平が見ていたマンモスが違ふとわかり、自分達と違ふ物を見ている陽平が不気味に思えてきたから。
 イ ただ夜を知らせる明かりがついただけなのに、陽平の話の聞いているうちにマンモスの正体は何なのか知ること不安を感じ始めたから。
 ウ 実際に存在しないはずのマンモスが陽平には見えているということが徐々に否定できなくなってきた、鳥肌はだが立つほど興奮してきたから。
 エ 得体の知れない物の正体がマンモスなのだと、図鑑を見て断定した陽平の話を聞いていると、実際にマンモスの息づかいを感じたから。
 オ 陽平の指さした校舎の方には何もない様子がみてとれたのに、そこにはやはり何か存在しているかのような雰囲気を感じられたから。

問六 ⑤「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」とありますが、一度は漢字を用いて「絶滅したマンモスの亡霊」と表現しておきながら、このようにひらがなで改めて書き直しています。このことによって、作者はどのようなことを表そうとしていますか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」と書くことで、それがもたらすイメージを直樹が噛みしめもう一度味わい直している様子。

イ 「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」と書くことで、なんとなく言葉だけが頭に浮かび、直樹の考えが少しもまわっていない様子。

ウ 「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」と書くことで、精神的に幼い直樹たちが大人びた陽平の言っていることを全く理解できていない様子。

エ 「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」と書くことで、マンモスが陽平の言っているほどには醜いものではないと直樹が感じている様子。

オ 「ぜつめつしたマンモスのぼうれい」と書くことで、直樹たちが、陽平の受け取り方とは違って子どもらしくマンモスを理解している様子。

問七 ⑥「俺達は妙にしんみりしてしまった」とありますが、なぜ「しんみりしてしまった」のですか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア マンモスの亡霊という魅力的な言葉に心奪われていたのに、陽平の話をよく聞くと、マンモスとは不気味さだけが残る亡霊なのだということがわかり、物悲しくなってきたから。

イ マンモスの亡霊という言葉に心がくすぐられてしまったが、自分たちの持っている勇ましいマンモスのイメージと、醜くなってしまうた亡霊とが繋がらず、想像力が無いことが取手かしくなったから。

ウ マシユマロのような形をしたマンモスがいるとは信じ難いが、自分が何者なのかを忘れてさまようマンモスの様子がマシユマロのような外見に表れていると説明されると、その運命に思いをさせてしまったから。

エ マンモスが亡霊になって現代に存在しているという陽平の話には矛盾があり混乱してしまったが、事細かにマンモスの亡霊の実態を説明されるうちにかわいそうな気分を満たされたから。

オ 絶滅したはずのマンモスが亡霊となって自分の形さえ忘れてさまよっているという話は現実味が無いと思えたが、化石が出土している事実があるので簡単に否定もできず、困り果ててしまったから。

問八 ⑦「陽平はふふんと笑った」とありますが、直樹はその「笑い」をどのような「笑い」だと理解しましたか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 生き物が絶滅するかどうかは人の意識によって決まるということを、他の人はわかっていないのだと思つて得意になっている笑い。

イ 人の心の中に憧れとして存在する恐竜と、マンモスとは、違いがあるということに気付かないヨッシーのおろかさを見下す笑い。

ウ 恐竜とマンモスの違いを理解していないヨッシー達とは違った感性を持っていることを自慢げにひけらかすような笑い。

エ 現実には恐竜もマンモスも絶滅しているというヨッシーの発言が、当たり前すぎてもしろいと思つているような笑い。

オ マンモスが生き物として消え去ること、意識の中から消え去ることの違いを説明するのが苦しく、ごまかそうとしている笑い。

問九 ⑧「俺達はその日、陽平を発見した」とありますが、これはどのような意味ですか。その説明として、よいと思われるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 人間の心の中でマンモスを記憶し続けることが、さまよい続ける亡霊のマンモスを救う手段だという陽平の主張が初めてわかった。

イ 今まで変わった奴どしか思つていなかった陽平の言動には、自分たちの思いの遠く及ばない意味があったということに気づかされた。

ウ 何を考えているかわからなかった陽平の見えるものがわかった一方で、陽平と俺達との間に余計に距離ができたように感じた。

エ 俺達は目に見えるものしか信じていないのに、陽平には正体はつきりとしなないものを追求していく力があることに驚いた。

オ 同じ雲を見ても、マンモスの正体を説明することができる陽平は、それができない俺達とは全く違うということを見せつけられた。

ないこと

受験番号

氏名

合計

受験番号

氏名

合 計

	1982	1983	1984	1985	1986
1	1	1	1	1	1
2	1	1	1	1	1
3	1	1	1	1	1
4	1	1	1	1	1
5	1	1	1	1	1
6	1	1	1	1	1

	1994	1995	1996	1997	1998
1					
2					
3					
4					
5					
6					

①	①	⑥	①
②	②		
		⑦	②
③	③		
④	④		
		⑧	③
⑤	⑤		
⑥	⑥	⑨	④
		⑩	⑤

[illegible]

			(A)				(1)
		- - - -					
		- - - -					
		- - - -	(B)				(2)
		- - - -					
		- - - -	(C)				(3)
		- - - -					
			(D)				(4)
			(E)				(5)

[illegible]

									(a)
									(b)
									(c)